



善前小だより

No.6 令和元年9月号

8月27日 発行

住所 南区太田窪2500番地1

電話 882-7871 FAX 811-1329

ホームページ <http://zenmae-e.saitama-city.ed.jp>

「善力前進」ともに伸びよう 善前小 ～はずお心 きたえる体 学ぼう創ろう「みどりの学園」～

「非認知能力」の大切さ

校長 小田切 倫子

夏休みに入った当初は、低温や雨で水泳学習が中止になる天候でしたが、今年の夏も、やはり暑い夏となりました。38日間の夏休み、それぞれ充実した時間となりましたでしょうか？この間特に大きな事故やけが等のお知らせは届いておりません。これも保護者や地域の皆様の見守りやお心遣いのおかげと、感謝申し上げます。ありがとうございました。

さて、私事ですが、いつも夏休みの間に人間ドックを受けます。今年も受けてきました。人間ドックでは、決まって腹部のエコー検査があるのですが、いつも思うことがあります。それは、「担当してくださっている検査員の方が、心配性の方だといいな」ということです。検査員の方は、お腹に機械を当て、ゆっくり動かしながら状態を見てくださいます。ときどき手を止めて、モニターをじっと見つめる時間があるのですが、「何かあるのかな・・・」と不安な気持ちになります。止まっている時間が長ければ長いほど「どうしたんだろう・・・やっぱ何かあるのかな。」という不安が高まり、「何でもないといいな。きっと見えにくくて時間がかかっているのだろう。大丈夫、大丈夫。」と、自分で自分のことを一生懸命安心させようとしてしまいます。一方で、「でも、この方が心配性だといいな」と考えるのです。検査をしながら“あれ？”っと気付いた時、心配性なら「もう一度見てみよう」とか「念のため画像を残しておこう」など、しっかり対応してくださると思うからです。もちろん、検査員の方は、きちんと勉強して臨床実習などもされているでしょうし、実際に勤務をして経験も積まれているでしょう。病院にも複数体制でチェックをするマニュアルなどがあるかもしれません。でも、やはり今、実際に私のお腹を直接見てくださっている検査員の方の役割は、とても重要だと思うのです。まずは異常を見逃さないようにしなければなりません。生活が乱れていて寝不足だったり、人間関係でのイライラをコントロールできなかつたりするようでは、心穏やかに正確に検査することができません。『心配性』というと、マイナスイメージに聞こえてしまうかもしれませんが、『慎重』と言い換えることができます。一見“弱み”と思えることも、枠組み（フレーム）を変えてみることで“強み”なるのです。『慎重』に物事を進めようとする方ならば、小さな疑いもそのままにはしないでしょ。また、協調性があり、協働で仕事に臨む方ならば、他の方に相談するなどより適切な対処ができるばかりでなく、その方自身がますます力を伸ばしていくでしょう。

さて、ちょっと話が飛躍してしまいましたが、人間ドックを受けながら、いつも最後は学校のことを考えるのです。学校では、日々の授業や教育活動をとおして、子どもたちの様々な力を伸ばしています。できた・できないがわかりやすい、いわゆる「認知能力」といった力もちろん大切ですが、それとともに、忍耐力や自制心、対処能力、創造性といった、数値化できないような「非認知能力」と言われる力を伸ばしていくことも重要です。人間ドックを受けながら、思いはやはり今年も子どもたちのことにたどり着きました。

2学期は一番長く、大きな行事もたくさんある学期です。今年度は、40周年記念行事もあります。子どもたち一人ひとりの力を伸ばすことができるよう、教職員一丸となって取り組んでまいります。皆様のご理解とご協力を、引き続きよろしく願いいたします。